

## 安全データシート (SDS)

### 1 化学品及び会社情報

#### 化学品の名称

製品コード	4-DF-001
	4-DP-001
製品名	ダニ (Df) 培地抽出物
	ダニ (Dp) 培地抽出物

#### 会社情報

会社名	ITEA株式会社 東京環境アレルギー研究所
担当部署	品質保証課
住所	〒113-0001 東京都文京区白山1-33-18白山NTビル
電話番号	03-3526-2031
Fax番号	03-3526-2032
電子メールアドレス	reag-info@itea.jp
緊急連絡電話番号	03-3526-2031

#### 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	研究用試薬
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する。

### 2 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	分類できない
健康に対する有害性	分類できない
環境に対する有害性	分類できない

#### GHSラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	該当しない
注意書き	該当しない

他の危険有害性 情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要 情報なし

### 3 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別

混合物

## 組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS番号	官報公示 整理番号	濃度又は 濃度範囲 (wt%)
抽出物原料 (*1) 由来成分	-	-	≥ 87.76
塩化ナトリウム	7647-14-5	1-236	≤ 8.41
りん酸水素二ナトリウム七水和物	7782-85-6	1-497	≤ 2.82
Proclin™ 950	-	-	≤ 0.55
リン酸カリウム	7778-77-0	1-452	≤ 0.25
塩化カリウム	7447-40-7	1-228	≤ 0.21

\*1 抽出物原料は以下のとおり。

4-DF-001：ダニ (Df) 培地 (CAS番号：-, 官報公示整理番号：-)

4-DP-001：ダニ (Dp) 培地 (CAS番号：-, 官報公示整理番号：-)

## 特記事項

ProClin™ 950中に以下を含む。

2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン (CAS番号：2682-20-4) < 10% (製品中 < 0.06%)

本製品は、毒物及び劇物取締法、安衛法「表示、通知すべき有害物」、化管法に該当する危険有害成分を含まない。

## 4 応急措置

### ばく露経路による応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	大量の水で洗うこと。異常が生じた場合には、直ちに医師の診断、 手当てを受けること。
眼に入った場合	水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを 着用して容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 直ちに医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。

### 予想される急性症状

本製品に接触したり吸入した場合、眼、皮膚や気道に刺激性を生じたりアレルギー反応を生じる可能性がある。

### 遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

### 応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

### 医師に対する特別な注意事項

情報なし

## 5 火災時の措置

### 適切な消火剤

周辺火災に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

### 使ってはならない消火剤

消火剤の制限なし。

#### 特有の危険有害性

情報なし

#### 特有の消火方法

消火活動は風上から行う。  
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

#### 消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

---

## 6 漏出時の措置

---

#### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

#### 環境に対する注意事項

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

---

#### 取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 粉じんを発生させないようにする。
接触回避	直射日光、高温多湿を避ける。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

#### 保管

技術的対策	2～8℃を維持できるバイオメディカルクーラーで保管する。
混触禁止物質	情報なし
保管条件	直射日光を避け、2～8℃で保管する。
容器包装材料	ガラス

---

## 8 ばく露防止及び保護措置

---

#### 管理濃度

設定されていない

#### 許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2018)	3 mg/m <sup>3</sup>	（その他の不溶性のレスピラブル粒子）
	10 mg/m <sup>3</sup>	（その他の不溶性のインハラブル粒子）

ACGIH TLV-STEL (2018)	設定されていない
日本産業衛生学会 (2017)	2 mg/m <sup>3</sup> (第3種粉塵 (その他の無機および有機粉塵)、吸入性粉塵)
	8 mg/m <sup>3</sup> (第3種粉塵 (その他の無機および有機粉塵)、総粉塵)

※ 本項目は感作性そのものに対する許容濃度ではない。

### 設備対策

粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器または局所換気装置を使用する。

### 保護具

呼吸用保護具	保護マスクを着用する。
手の保護具	ゴム手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣を着用する。

---

## 9 物理的及び化学的性質

---

外観 (物理化学的状態、形状、色など)	薄茶色もしくは白色粉末
臭い	無臭
臭いの閾値	情報なし
pH	7.2～7.6 (精製水で溶解後)
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	情報なし
蒸発速度	情報なし
燃焼性	情報なし
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	情報なし
比重	情報なし
溶解度	水に溶解するが、濁りを生じることがある。
<i>n</i> -オクタノール/水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	情報なし

---

## 10 安定性及び反応性

---

反応性、化学的安定性	通常の手扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	直射日光、高温多湿
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

---

## 11 有害性情報

---

製品の有害性情報	情報なし
成分の有害性情報	情報なし

---

## 12 環境影響情報

---

### 製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

### 成分の環境影響情報

情報なし

---

## 13 廃棄上の注意

---

### 残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

### 汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した上、リサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

---

## 14 輸送上の注意

---

### 国際規制

#### 陸上輸送（ADR/RIDの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

#### 海上輸送（IMOの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
IBCコード	該当しない

#### 航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）

国連番号	該当しない
品名	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

### 国内規制

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない

海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない

**緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号**

該当しない

**特別の安全対策：**

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

---

**15 適用法令**

---

毒物及び劇物取締法	該当しない
労働安全衛生法	
名称等を通知すべき危険物及び有害物	該当しない
名称等を表示すべき危険物及び有害物	該当しない
化学物質排出把握管理促進法	該当しない

---

**16 その他の情報**

---

**参考文献**

ITEA株式会社 東京環境アレルギー研究所保有資料  
NITE GHS分類結果一覧（2018）  
日本産業衛生学会（2017）許容濃度等の勧告  
ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2018) TLVs and BEIs.

**【注意】**

本SDSは、JIS Z 7253:2019に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がございますので、取扱いにはご注意ください。本SDSの記載内容については、新しい知見等があった場合には適宜改訂を行います。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。